

Title	Recent revelations of European diplomacy, by G. P. Gooch, 3rd. imp. with a supplementary chapter on the revelations of 1927, 8vo. lx+218 pp. London, 1928
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.2 (1929. 8) ,p.152(318)- 153(319)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290800-0153">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290800-0153</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

つべきものが、大いにある。

本誌は年六回、隔月に發行される。一號は三月に、二號は五月に公にされた。

次に一號の主要な目次を挙げれば、次の如くである。

「發刊の辭」(太山柏氏)、「史前學雜誌の發刊を喜ぶにつけて過去五十年の思ひ出」(有坂銘藏氏)、「日本に於ける史前時代の歴史研究に就いて」(喜田貞吉氏)、「我國石器時代の現況」(大山柏氏)、「隣生の銘を有する骨藏器に就いて」(宮坂光次氏)、「茨城縣小文開村中妻貝塚調査概報」(甲野勇氏)、「下總上本郷貝塚堅穴に就いて」(伊藤信雄氏)等である。此の他、資料文献の研究欄が設けられてあるのは、本誌の一特色であるに止らず、研究者を利する所、蓋し大なるものがあらう。

終りに臨み、前途洋々たる將來を有する本誌の大發展を祈つて筆を擱く。(宮島貞亮)

### Recent Revelations of European Diplomacy, by G. P. Gooch, 3rd.

Imp. with a supplementary chapter on the  
revelations of 1927.

Svo. 1x + 218 pp. London. 1928.

何といつても最近世史の玉座を占めるものは世界大戰である。近世に於ける諸般の發展傾向はすべてこの處にひと先づ集注せられ、これより出直して更に他の傾向に進まんとするかの如き觀が

ある。政治たるは外交たるは、はた經濟たるは思想たるを問はず、それはすべて皆この處に於て重大なる洗禮を受けたのである。これを中心として前後を比較對照するならば吾等はその間に著しい相違と發展或は頓挫と轉換を認めるであらう。隨つて之を中心としての研究は頗る複雑多岐に互り、又之に關聯せる著述は充棟も啻ならざるものがあつて、容易に手を染め難いのであるが、幸にカネーギー財團法人その他の機關によつてその包括的研究が試みられつゝあるのは誠に喜ばしい次第である。

その一面をなす大戰外交の研究は、その關係諸國並に當事者が現在なほこと直接の利害關係を有する點よりして容易にその真相を確かめ難いのであるが、大戰に基づく帝政崩壞その他の事情により、これなくしては知り得ざりしなるべき文書の暴露がドイツ共和國政府を手初に、その他の政府團體並に個人によつて續行せられ、之に關聯しての反駁・辯護等の著述も夥しく出版せられ、何時果つべしとも思はれないまでに至り、研究者を利したるも、研究その者は却つて複雑を加ふるに至つたが、多年英國の史界にあつて幾多の著述を出し、這般の事情に精通せる G. P. Gooch 氏のこの著述は、冷靜なる著者その人に接する如く、頗る客觀的な態度を以て、是等の著述、傳記、自叙傳、備忘録、辯明書、文書集等、頗る廣汎なる資料の間を憚る處なく縦横に馳驅し、獨、塊、露、近東諸國、佛、白・伊・西、大英國、米國、雜論の諸章に於て、互に關聯せる諸般の問題を捕へて、是等資料について、之を論評し乍ら、自己の見解をも併せてその中に開展させてある。本書は、もと一九二二年十二月二日大英國國際事情研究會(British

Institute of International Affairs) に於て發表せられ、翌年一月號の同會會報 (Journal) に掲載された事か、内外の需要が多かつたのと、之を最新の時日に及ぼさんことの切なる要求に促がされて、爾後四年間に出でたる政治外交上の暴露を之に加へて成立したものであつて、その範圍は大戦勃發後の出版物とウイルヘルム二世の登位よりヴェルサイユ條約締結に至るまでの時期の説明に限られてゐる。なほこの第三版に於ては、卷頭に更に一章を増補して、一九二七年に行はれたる暴露について、前と同じ順序に論述せられてゐる。

該博なる著者の論法は、前著『第十九世紀の歴史及び歴史家』に見たる如き氏獨特のものであつて、その豊富なる内容を巧に按排概括せる手腕は眞に敬服すべきものがある。大戦外交に關する諸著の内容的總覽とも見るべき本書は在來の大戦に關係せる諸著に對して多くの訂正を要求すべく、例へば前獨帝が權力も救策も意志もなき單なる看板であるとせるに文武兩面の記述の一致せる如き(五七頁)異様に思はれる點もあつて、研究者の必ず一讀を要する見逃すべからざる著述であるが、たゞ吾等の遺憾とする所は本書に分用せられたる著述を一括して見得るの場所が我が國に見られないことであらう。それに付けても、余はバリーに見たるカネーギー財團法人の寄附による國際關係文庫の如きものが義塾圖書館或は國際聯盟協會支部の如きにありたらばと思ふ。(間崎万里)

## A Political Handbook of the World,

edited by M. W. Davis and W. H. Mallory.

書評

本書はもと『歐洲政治必携』として出版したるを昨年表題の如く改めて、之を全世界に及ぼすこととし、毎年一月一日の日附に於ける世界各國の政府、國會、政黨(その政綱と領袖)、新聞等について(四六倍版の紙面に)簡潔に記載せんとする一種の年鑑である。これに北米合衆國が省かれてゐるのは本書が同國の讀者を指して編述せられたものだからである。數多の一般年鑑類、殊に『The Statesman's Year-Book "Europa"』の如きとはその趣旨を等しくするものであるけれども、本書には國勢産業等に關する記事なき代はり、前者に缺けたる政黨と新聞に關する項目が特記せられてゐるので、先づ以て年鑑としての『Europa』又は我が外務省編纂の『各國の政黨』の毎年一月一日に於ける現在面の一目瞭然たる表解とも見られよう。本書の特色は後者に比してその簡潔なるにある。走馬燈の如き國際政局の異動について興味を有するものは必ずや本書の利益を感じるであらう。(間崎万里)

### 寄贈交換圖書雜誌目錄

幕末四傑	上森茂著	金	雜	學	院
人物研究叢刊	雜賀博愛著	金	雜	學	院
明治維新の精神と人物	金雜文藪	武	藤	長	藏
日英交通史料一、二		武	藤	長	藏
鐵道經濟に關する文献の經濟學史的研究		武	藤	長	藏
遠江國本興寺史料繪葉書一組		名	古	星	史
晴耕雨讀本	菅原兵治編著	金	雜	學	院
傳記資料索引一の二		日	比	谷	圖
		日	比	谷	圖

(三九)

一五三